

[処理水準] 指導案

指導者 清野・関口・高橋

本時の指導

(1) ねらい

処理水準の理論を理解する。日々の学習と関連づけた学習方法を知る。

(2) 本時の展開

過程 (時間)	○学習活動 ・トピック	□教師の支援
導 入 (15分)	<p>○ 処理水準と学習を関連付け具体例を示す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普段の学習の中で [もっと簡単にものごとを覚えることができないか] と思うことはないだろうか？ ・ どんな場面で利用できるのかを、中学生の日頃の学習に近い条件でいくつかの例を示しながら説明する。 ・ 例) 歴史の出来事を覚える。 英単語を覚える。 都道府県名を覚える。 ・ よい記憶方法はないのだろうかと問いかける。そのひとつの要因に処理水準がある。 	<ul style="list-style-type: none"> □ パワーポイントを用いて、処理水準と日常の学習を関連付けて解説する。 □ 生徒に、日頃感じている記憶力がもっとあったらいいな、と思う場面を質問する。
展 開 (20分)	<p>○ 処理水準の考え方を実験であきらかにする。</p> <p>→実際に単語をより多く覚える実験をする。</p> <p>→「知覚と反応の速さを調べる」という名目で開始する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習材料である単語を知覚的な符号化処理（文字数、表記語判断）と意味的な符号化処理を行い、方向づけ課題として質問をする。それが正しければ○、正しくなければ×をノートに記入させていく。その後計算問題を行う。最後にいくつ覚えているかを確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ パワーポイントで単語と質問を表示する。 □ 答え合わせをする。

<p>終 末 (15分)</p>	<p>○処理水準のメカニズムを学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・処理水準の考え方は、記憶というものは情報を頭の中で処理する中で生まれ、情報を深く処理するほどよく覚えることができる。 ・例えば、単語を覚えるときに文字のつづりや音に気をつけて、繰り返し練習するよりも意味を考えたり、自分の日常と関連づけることでより深い処理をすることができ、より長くその単語を覚えておくことができる。 ・展開の実験結果の評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> →出題した単語ごとにその問題がどのレベルの処理かを示し、意味的処理を行った単語をより多く覚えていることを確かめる。 ・勉強法の紹介 <ul style="list-style-type: none"> →歴史を覚えるときに、ひとつひとつの単語を覚えるのではなく、年表にして、時代の流れと単語を関連付けて覚える。出来事などの情景をイメージしてみる。 →都道府県を覚えたいときは、地方や気候など関連することでまとめ、イメージを膨らませて覚える。 	<p>□ パワーポイント</p>
--------------------------	---	------------------

参考文献 山内光哉/春木 豊 「グラフィック学習心理学 行動と認知」